

屋久島主要山岳部の利用動向把握(カウンター)調査について

1. 目的

屋久島の世界自然遺産登録地を含む山岳部の管理を行うための基礎情報として、山岳部の利用動向を把握することを目的とした自動観測装置(カウンター)による利用動向把握の調査を行っています。

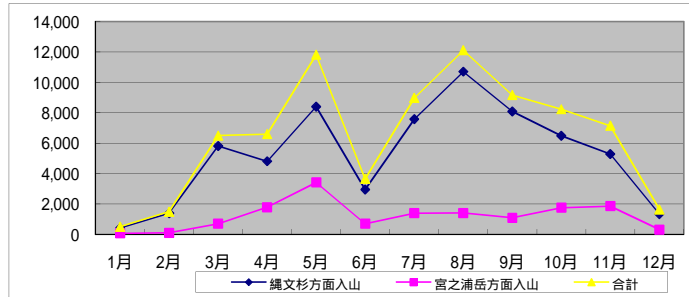
2. 経緯

- 平成11年7月 鹿児島大学の枚田助教授がカウンターを設置し調査開始。
- 平成13年～ 環境省との共同調査に移行。
- 平成18年1月 カウンター機器を環境省により更新。

3. 調査方法

- 1) 荒川登山口から縄文杉方面へ向かう登山道(楠川分れ付近)に2箇所、淀川登山口から宮之浦岳方面へ向かう登山道(淀川登山口)に1箇所、合計3箇所にカウンターを設置。より正確なデータ収集のため1箇所2台ずつ、計6台設置し、年間を通してデータを収集しています。(別紙2参照)
- 2) カウンターは、赤外線反射を利用して通過人数をカウントする方式。日時や方向(上り・下り)等を記録します。

4. 平成18年利用動向データ(カウンターデータ)



平成18年(2006)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
縄文杉方面入山	430	1,392	5,804	4,810	8,396	2,952	7,580	10,707	8,079	6,480	5,283	1,324	63,237
宮之浦岳方面入山	68	101	697	1,785	3,418	698	1,399	1,408	1,088	1,752	1,860	311	14,585
合計	498	1,493	6,501	6,595	11,814	3,650	8,979	12,115	9,167	8,232	7,143	1,635	77,822
入島者数 (種子屋久観光連絡協議会調べ)	13,886	17,020	30,603	27,335	35,185	21,253	30,545	41,487	27,874	30,621	29,260	18,771	323,840
入島者数に対する入山者の割合	3.6%	8.8%	21.2%	24.1%	33.6%	17.2%	29.4%	29.2%	32.9%	26.9%	24.4%	8.7%	24.0%

赤字の箇所はデータ欠測期間があり、補正を加えた推定値。(平成22年2月一部訂正)

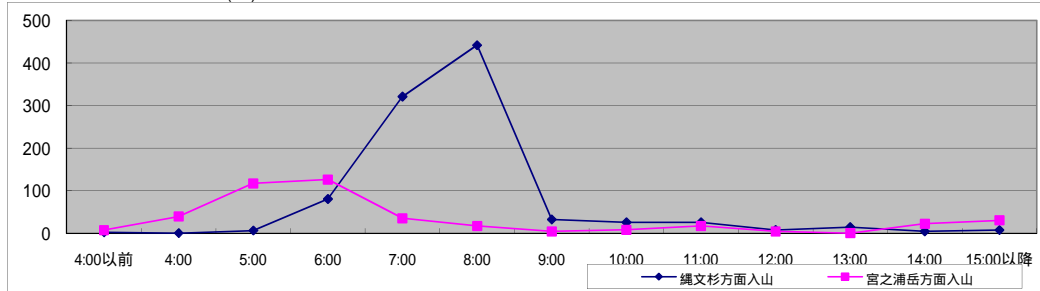
青字の箇所は期間中に工事があり、工事関係者の通行があったため補正を加えた推定値。(平成22年2月一部訂正)

<入山が集中した日上位10日>

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
縄文杉方面入山	月日	5/4(木)	5/5(金)	11/4(土)	5/1(月)	7/16(日)	5/6(土)	10/8(日)	5/2(火)	8/14(月)	5/3(水)
	人数	965	759	631	598	592	575	571	502	495	492
宮之浦岳方面入山	月日	5/4(木)	11/3(金)	5/3(水)	5/28(日)	5/5(金)	5/1(月)	4/30(日)	7/16(日)	7/15(土)	5/29(月)
	人数	426	346	261	242	230	197	179	176	175	164

土日祝祭日は赤字表示。

<入山が最も集中した5月4日(木)の時間帯別利用動向>



	4:00以前	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00以降
縄文杉方面入山	2	0	6	80	321	442	32	25	25	7	14	4	7
宮之浦岳方面入山	7	39	117	126	35	17	4	8	17	4	0	22	30

各カウンターを通過した時間帯のデータ。縄文杉方面入山カウンターは荒川登山口入山から約1時間の所でカウント。

<入山が集中した月>

- ・ 縄文杉方面入山で最も多かったのが、8月の10,707人。ついで5月の8,396人、9月の8,079人。
- ・ 宮之浦岳方面入山で最も多かったのが、5月の3,418人。ついで11月の1,860人、4月の1,785人。

<入島者数に対する入山者数の割合が多い月>

- ・ 入島者数に対する入山者数の割合がもっとも多かったのが、5月の33.6%。ついで9月の32.9%、7月の29.4%。

<年間データ欠測率(平成18年1月～12月(365日間))>

- ・ 縄文杉方面入山のデータ欠測率は0%(0日/365日)。
- ・ 宮之浦岳方面入山のデータ欠測率は16.2%(59日/365日)。

5. 平成18年まとめ

- ・ 主要山岳部への入山者は5月(GW)と8月(夏休み)に集中。
- ・ 9月以降も入山者が多いのは団体ツアーが増えることが主な理由と思われる。
- ・ 主要山岳部の利用動向は気象による直接的、また間接的(各交通機関の欠航等)影響を受けやすいと云えますが、平成18年は、特に利用動向の集中した5月(GW)と8月(夏休み)にほとんど警報は出ていない。年間を通して各交通機関の欠航便が少ない。以上のことから、年間を通じて多くの入山者があった年と云えます。

6. 参考データ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気象データ (気象庁屋久島測候所調べ)	13日:ABD	26日:AB	警報無し	警報無し	7日:A 26日:AB 27日:A	2日:A 8日:AB 15日:AB 17日:AB 18日:A	3日:AB 6日:AB 7日:AB 9日:D	16日:D	11日:AB 16日:D 17日:ABCD	警報無し	18日:AB	7日:AB

A = 大雨警報、B = 洪水警報、C = 暴風警報、D = 波浪警報

・ 大雨警報の基準が山岳部県道の通行止めの基準に近い事も含め、各警報は入山者の登山目安となり、主要山岳部の利用動向に影響を与える

各交通機関の就航率 (各交通機関調べ)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
JAC	99.4%	95.7%	96.1%	93.4%	94.0%	90.6%	99.0%	99.5%	94.8%	100.0%	96.7%	96.3%
トッピー	97.6%	93.7%	96.8%	89.9%	98.1%	97.3%	98.0%	94.8%	94.7%	100.0%	100.0%	94.8%
ロケット	90.3%	92.9%	96.8%	83.3%	95.8%	92.5%	96.7%	91.7%	94.8%	100.0%	98.3%	95.2%
フェリー屋久島2	93.5%	92.9%	67.7%	96.7%	96.8%	96.7%	96.8%	96.8%	93.5%	96.8%	96.7%	93.5%
フェリーハイビスカス	93.5%	92.9%	90.3%	96.7%	100.0%	96.7%	50.0%	93.5%	93.3%	100.0%	100.0%	90.3%

・ 3月のフェリー屋久島2と7月のフェリーハイビスカスの就航率が低い値となっているのは、ドッグ入りのため。